

いちめんのなのhana

令和2年5月21日(木)
こうちょう 校長 すすき 木 さまこと 誠



再会に笑顔がほころびました

～教材の提出や受け取り 5月7日(木)～

快晴に恵まれたこの日、教室や中庭に子供たちの姿が戻りました。久しぶりの登校でしたが、元気な子が多く、安心しました。臨時休業中は工作をしたり家族の時間を楽しんだりする子もあつたと聞き、感心しました。

お父さんに連れられた子供の姿も多くみられました。在宅勤務や時差勤務の方もおみえだったと聞きました。それにしても、国や県の緊急事態宣言や通達のために対応を迫られ、御家庭に苦労をおかけしたり振り回したりすることの多い臨時休業中でしたが、誠実に御対応くださる御家族の姿に、ただただ感謝するばかりです。そして、大切なお子さんの健康と安全、成長を担う責任の重さを再認識しました。

学校再開に向けて

休業期間中に「新型コロナウイルスと向かい合う新しい学校生活」のあり方を求めて、全職員で協議を重ねたり、様々な具体的な取り組みをしたりしました。その一部を紹介します。

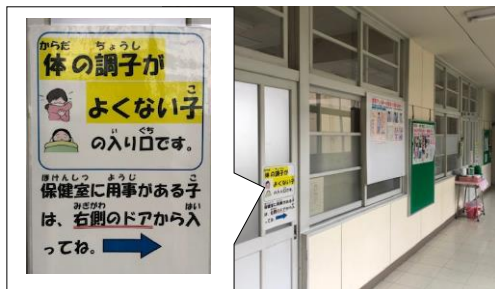
給食の際には、配膳台だけでなく一人一人の机を次亜塩素酸水で消毒します。その際に用いる雑巾は、毎日、次亜塩素酸ナトリウムで消毒します。また、下校後には、教室や流し、階段の手すりなどの子供たちが触れる箇所を次亜塩素酸ナトリウムで消毒、トイレも専用の雑巾を用いて次亜塩素酸ナトリウムで消毒します(男子用の小便器については、間隔を



給食時や下校後の消毒準備

て利用できるように使える便器を制限します)。もちろん、専用の雑巾を準備するだけでなく、それらの雑巾を別々に消毒できるように専用のバケツなども準備しました。フェイスシールドの作成もしました。そして、先生たちは、校内の清掃をしながら消毒の練習も行い、5月21日の分散登校開始に備えました。

また、保健室の入り口を「けがで来室」と「体調不良で来室」の入り口を分けることもしました。



目に見えない「新型コロナウイルス」との闘いですから、万全とはいかないのかもしれませんが、これからも「新型コロナウイルスと向かい合う新しい学校生活」を求めて、最善を尽くしていきたいと思えます。また、子供たちが「新型コロナウイルス」との向かい方を学んだり考える力を養ったりすることも大切にしたいと思えます。

それにしても、学校中で草が伸び放題でした。主である子供たちが不在の影響はそんなところにも表れました。草刈は大変な作業でしたが、美しい環境で子供たちを迎える準備も進めました。



学校では

・AEDの使用と心肺蘇生法の研修会 4月2日(木)

養護教諭を中心に、AEDの使い方と心肺蘇生法の研修会を行いました。あわせてエピペン(医師の治療を受けるまでの間、重度の食物アレルギー症状併発の進行を一時的に緩和し、ショックを防ぐための補助治療剤)の使用についても研修しました。こうした研修の成果を発揮する機会がないのが一番よいのですが、様々な事態を想定し、学校の対応力を向上させます。

なお、本年度は、学校医による健康診断の予定が立たず、体育科の「水遊び」や「水泳」の授業は行えません(岡崎市小学校水泳大会の実施については現在、市で検討中)。御理解ください。



・植物教材の準備 4月27日(月)、5月1日(金)他

5月7日(木)にお渡しした植物教材の種まきや灌水等の苗の世話などを行いました。アサガオ、鉢に土を移したり種を蒔いたり。夏野菜、育てたい野菜の希望を募って、苗を鉢に植えたり支柱を立てたり、土のかさ増しのために牛乳パックを調達してそれを設置したり。ホウセンカ、種を蒔いたり発芽まで世話をしたり。本来ならば、子供たちに体験させるべきことばかりですが、時季を外せないこうした取り組みについては仕方ありません。子供も植物も成長は待たなしです。餌を与えたり掃除をしたりウサギの世話は、日直の先生が行いました。

また、毎年の作業ですが、栽培園の土起こし、苦土石灰や肥料を加えての土作りも行いました。

・「夏野菜の栽培」研修会 5月12日(火)

愛知県立農業大学校から3名の講師をお招きして、夏野菜の栽培について研修しました。

土の作り方やマルチの良さと灌水の注意点、野菜の種類に応じた苗を植える間隔や生育状況を考慮した配置、支柱のすえ方や苗と支柱の結び方、生育に応じた葉の手入れや脇芽欠きの仕方などを丁寧に教えていただきました。子供たちに充実した収穫を体験させたいとの思いでここ数年実施されてきた研修会を、新型コロナウイルス感染に配慮して今年も実施できました。



・季節は巡る

子供たちの成長と同じように待ってくれないのが、季節の移り変わりです。

4月には桜に加えて丹精込めて育て世話するパンジーやチューリップ、そして5月初旬にはフジが校内を彩りました。

子供たちに観てもらえないのは本当に残念ですが、健康であれば季節に寄り添う日常もいずれは取り戻せるはず。一日も早くそうした日が来るためには、がまんも必要です。